

# 川のインストラクター養成講座 in 静岡 現地研修 (H22第4回)

(事務局：しずおか流域ネットワーク：<http://www.ryuikinet.gr.jp/shizuoka/main.htm>)

静岡での“川のインストラクター養成講座”は、21単位の講座を年間4回に分けて行っています。今回は、平成22年度第4回の現地研修について紹介します。



第4回は、昔は1つの川であり、江戸時代以降に安倍川と巴川に分かれてしまった2つの川の流域を題材に、杉山講師とともに流域の歴史や産業を訪ねながら「川と人・社会・文化の関わり」について実習し、また、秋山講師とともに“水循環の1つの経路・土砂循環の1つの経路”としての川の働きについて、石の標本作りを通して実習し、「体験活動の基礎技術」を身につけました。

日時：平成22年11月7日（日） 9時～17時

場所：安倍川水系安倍川（静岡市葵区） & 巴川水系巴川（静岡市清水区）

受講者：8名（+スタッフ1名、講師2名、計11名）

行程：JR 静岡駅～安倍川（舟山付近）：石の標本作り～薩摩土手&用水～駿府城石垣～県庁展望ロビー～麻機遊水地～大谷川放水路分流点～繰舟八幡～旧巴川～江尻城跡&江尻湊～清水湊～鎌倉時代の繰舟（埋蔵文化財センター）

講座内容：（ ）内は単位数

- ・安倍川&巴川に学ぶ「川と人・社会・文化の関わり」・・・(2)  
(元高校教師の杉山先生を講師に迎え、薩摩土手築造をきっかけとする駿府の町づくりにより2つに分かれてしまった安倍川と巴川の歴史を現地実習により学びました。また、かつては舟運も盛んであった巴川について、今川義元、武田信玄、徳川家康といった戦国武将の時代まで遡って、江尻城&江尻湊や清水湊について学びました。)
- ・土砂循環のメカニズムと石の標本作り (2)  
(秋山さんを講師を迎え、安倍川の舟山付近左岸の河原にて石の標本作りを行いました。火成岩、堆積岩の成立ちや、日本列島の地質構造を基に構造線、付加体や何億年という長いスパンでの土砂循環について学び、石の色や粒の違いを確かめながら標本作りを行いました。)
- ・駿府城の石垣、巴川製紙の正門石柱など石の色々(2)  
砂岩や凝灰岩が多い駿府城の石垣について、刻印捜しをしながらその歴史を学びました。また、巴川製紙の正門にあり三河から運ばれたと言われる「三ツ石」や、清水湊近くの伊豆石を使った石蔵を見て回りました。



(川原で石の成立ちを聞いて標本作り)



(かつての江尻城と江尻湊について学ぶ)



(旧巴川沿いの繰舟八幡にて)



(鎌倉時代の東海道で使ったと推定される繰舟)